

REGAL 33 OBX

リーガル33OBX

ランナバウトやパウライダー、エクスプレスクルーザーといった、スポーティーモデル、ファミリーモデルに多くのノウハウを持つ、リーガルのパウライダーです。33フィートクラスという、パウライダーとしては少し大きめのハルは、エクスプレスクルーザーなどにも用いられる、オフショアゴーイングモデルのもの。ヤマハF300Gの2基掛けで、40ノットを超えるパフォーマンスを見せます。余裕あるサイズは、船内の居住性などにも貢献。広々としたコクピットにグリル付きのウエットバーを装備し、ゆとりを感じさせる船上ライフを演出しています。

文・図＝中島新吾 写真＝松本和久
Text & Illustrations by Shingo Nakajima; photos by Kazuhisa Matsumoto
協力＝須磨ヨットハーバー

30ノット後半。あまり高速航走には向かない海況でしたが、330BXは、しっかりと余裕あるその航走能力を見せてくれました。光が反射しているのだから分かりやすいと思いますが、それなりに波の中を走っているにもかかわらず、ウインドシールドにも、舷側にも、ほとんどスプレーを被った跡がありません。それだけきれいな姿勢とスプレーさばきで走っているということです。

YouTube動画配信中
右記QRコードまたは、
Kazi Movie で検索





シアーラインは船首下がりのリバースシアーなのですが、航走状態で船首が少し持ち上がると、前方視界が確保されたままで、デッキ面が水平になるという、うまい設計です



ヤマハF300Gの電動ステアリングはなかなかの好感度です。現代の電氣的リンケージのステアリングは、どれもとてもよくできていて、操船が楽しくなるものばかりです

2016年モデル

米国のリーガルマリン・インダストリーズ社(Regal Marine Industries Inc.)は、1969年、ポールとキャロルのクック夫妻(Paul and Carol Kuck)によって設立されて以来、ずっとクック家によるファミリービジネス企業として存在してきました。

創設者のポール・クックは、リーガルよりも大きく、歴史あるビルダーが存在した時代に、世界最大のマリン業界団体であるNMMA(National Marine Manufacturers Association=米国マリン工業会)の会長に選出されたこともある人物。彼は2006年に亡くなりましたが、翌2007年には、NMMAのホー

ル・オブ・フェイム(Hall of Fame=いわゆる「殿堂入り」)に叙せられています。

欧米のボートビルディング界において、ファミリービジネスによる経営形態は以前に比べて少なくなりましたが、同社は、そんな中でも特に成功を収めたところの一つといえるでしょう。現在のリーガルは、2世代目に当たるデュアンとティム(Duane and Tim Kuck)が率っていますが、すでに3世代目のジェイク(Jacob "Jake" Kuck)と祖父と同じ名前を持つポール(Paul Kuck)も経営に参画。安定した企業活動が続いているようです。

今回は、そんなリーガルのラインアップから、呼称33フィートクラスのパウライ

ダー、33OBXを取り上げることにします。

リーガルに対してボートユーザーが持つイメージは、スポーティーなモデルをラインアップしているブランド、というところでしょうか。ランナバウトやパウライダー、エクスプレスクルーザーなどが得意なビルダーという印象を持つ人が多いようです。実際、このブランドのラインアップはそういったモデルで占められていますし、大手市場調査会社のJ・D・パワー(J. D. Power)がモーターボートやモーターヨットを顧客満足度調査の対象としていたころは、ランナバウトやパウライダー、エクスプレスクルーザーといったカテゴリーの上位には必ずリーガルが含まれていました。33OBXは、そんなリーガルの得意分野のモデルの一つ、ということになるでしょう。

33OBXは、2016年に向けたニューモデルとして2015年末に発表されました。その当時、リーガルのこのクラスのパウライダーは、2013年に登場したスタンドライブの3200。33OBXは、その3200の船尾周りに変更を加えて船外機仕様に仕立てたモデルです。ただ、33OBXが登場した際、同クラスは33フィートクラスと呼称されることになったようで、翌2017年、33OBXのベースとなった3200は改名され、3300となって現在に至ります。

また、パウライダーの3200が3300と呼ばれるようになったのと同時に、同クラ



パウライダーは上部構造がシンプルなので重心位置は低めです。静止状態での安定感は、ファミリーユーザーにも使われることが多いこの種のモデルにとって大きなメリットです



上：船尾、トランサムドアの脇には、ボーディングステップが備わります。簡単な仕掛けの折り畳みステップですが、岸壁の高さによっては、これが必要なこともあるでしょう

左：コクピット最船尾側のシートは、バックレストの倒し方を変えてサンパッドにできたりします。この種のシートの定番アレンジですが、けっこう楽しいものです



すっきりとした船外機周りに注目。スイムプラットフォームは両舷にかなりのスペースがあります。ハードトップからは、電動サンドジャーを後方に伸ばすことができます



スタンドライブ仕様の3300では、エンジンルームですが、船外機仕様のこのモデルでは、大型の物入れとして利用されています。さまざまな遊び道具の収納にぴったりです

スのエクスプレスクルーザーである32エクスプレス(32 Express)も33エクスプレスの姉妹艇として、その船外機仕様である33XOもデビューしました。

ちなみに、2017年に改名したりデビューしたりした33フィートクラスの3モデルは、すべて現在もラインアップされています。そして、それら3モデルと33OBX、さらに2018年にデビューした33SAVのハルは、すべて同じルーツにつながるもので、現行5モデルの33フィートクラスは、ある種の姉妹艇というべき関係にあります。

ゆとりサイズ

全長10.39メートル、全幅3.18メートルの艇体寸法は、現行ラインアップに5モデルが存在する呼称33フィートクラスのうち、4モデルに共通するものとなっています。唯一、33エクスプレスの全長だ

けが5センチメートルほど長いのですが、これはおそらくスイムプラットフォームの形状の違いなどによるものでしょう。

船尾には、2基掛けの船外機を囲むような、凹形状のスイムプラットフォームが設けられています。船外機両舷のスイムプラットフォームは、スペースも十分にあって、船外機の存在があまり気になりません。また、この形状のスイムプラットフォームなら、船外機のメンテナンスにも役立つでしょう。

船外機の取り付け部分はとてもすっきりとしており、表に出ているのは船外機と艇体をつなぐコルゲートチューブのみ。一般的な船外機のそれに比べると細いチューブです。ステアリング装置などありません。これはヤマハF300Gが電動ステアリングを内蔵したモデルだからで、燃料供給のためのチューブを除くと、この船外機と艇体との間は電気信号を伝えるワイヤーハーネスでつながっているだけ

です。

さすがにエクスプレスクルーザーと同じサイズのモデルということで、船内はかなり広々としています。

コクピットは、船尾に大型ベンチシート兼サンパッドが備わり、コクピット内部は、左舷に長いベンチシート、右舷にかなり大型のウェットバーという造りです。船尾の大型シート兼サンパッドは、スタンドライブ仕様の3300だとエンジンケーシングを兼ねますが、船外機仕様のこのモデルでは、特大の物入れです。

パウウェルはコクピットほど広々としていたわけではありませんが、両舷にゆったりとしたシートを備えたスペースとなっており、フィラークッションを入れれば、U形の平面形状を持つベンチシートにもできます。

この種のパウライダーではすでに定番化していますが、左舷コンソールの内部をヘッドコンパートメントにしてあります。



パウエルの基本レイアウトは、余裕あるスペースに前方向きの2脚のシートという配置ですが、スペースにフィラークッションを入ると、U形シートにもなります

左舷側コンソールは、ヘッドコンパートメント。内部は広く、採光のための舷窓もあり、かなりしっかりとしたカウンターとウォッシュボウルも備わっています

パウライダーも30フィートを超えるクラスになると、コクピットは相当な広さです。中央の空間や大型ウェットバーなど、スペースに余裕のあるモデルらしい造りです



ヘルムステーション。多機能ディスプレイ1基で、エンジン関連のデータ表示から航法、測深までこなしてしまうというのは、いかにも現代のモデルらしいところだ



大型のウェットバーユニットがコクピットに備わります。グリルや冷蔵庫が装備されており、広々としたコクピットでバーベキューをすることが前提の装備品です



ハードトップは装備したいオプションの一つ。中央部分をサンルーフとしたアレンジもあります。よく見るとブルーLEDの照明が見えますが、夜はきれいでしょう

内部には、かなりしっかりした造りで、本格的な洗面器を備えた手洗い用のカウンターも設けられています。

また、右舷のコンソール内へは、パウエル側からアクセスすることができるのですが、内部にはダブルバースが設けられており、大人2人が横になれるスペースとなっています。実際にこの種のモデルでオーバーナイトクルージングをしようという人はほとんどいないと思いますが、大型物入れとしてとらえても、それなりに有用なスペースになるはずだ。

ヘルムステーションは正面に多用途ディスプレイを備えた現代的なもの。基本的なエンジン情報の表示は、独立した計器ではなく、この種のディスプレイで行われるケースが増えました。ステアリングはステンレスの3スポーク、2基掛け用のヤマハ純正エンジンコントロールとヤマハ・ヘルムマスターのジョイスティックは、右手を下ろしたところに、うまく段差を付けて配置されています。

なお、このモデルのスタイル上の特徴にもなっている大型のハードトップはオプションですが、これはぜひ取り付けたいところ。さらに、このハードトップの中央

部にサンルーフを装備するオプションもあります。

40ノット超

前述したように、現行ラインアップの33フィートクラスのハルは、基本的に同じものと考えていいでしょう。遡ると、1980年代のコモドア(Commodore)シリーズあたりがルーツとなるであろうこのハルは、かつてR・ハント & アソシエイツ(R. Hunt & Associates)が手がけたものをベースに、リーガルの技術開発陣が伝承してきた、いわば純正ディーブVからの発展型。モノヘドロンに近い形状で、トランスラムデッドライズが21度という、最近のハルとしては、けっこう本気のオフショアクルーザー向けのハルのように思えます。

2基掛けで搭載されている船外機は、前述したヤマハF300G。電動ステアリングを内蔵し、ヘルムステーションとは、エンジンコントロールも、ステアリングも、電気的なリンクageのみでつながっているタイプです。

試乗した際の海面は、それなりに風波があり、最高速をテストするには向かない海況でしたが、それでも42.5ノット(5,900回転/分)をマーク。ビルダーが提示しているパフォーマンスデータによると、最高で48.4陸上マイル/時(5,500回転/分)ですから、換算すると42.0ノット。まさにデータ通りの速度性能です。

電動ステアリングは、きわめて自然な感触でスムーズ。なめらかなステアリングは操船をより楽しいものしてくれます。また、モノヘドロンに近いハルは、エンジンの

トリム操作によって航走特性を変化させやすいため、ボートिंगにそういった楽しさを求める人には、歓迎されるでしょう。もちろん、現代のモデルですから、特に何もしなくとも、そこそこうまく走ってくれます。

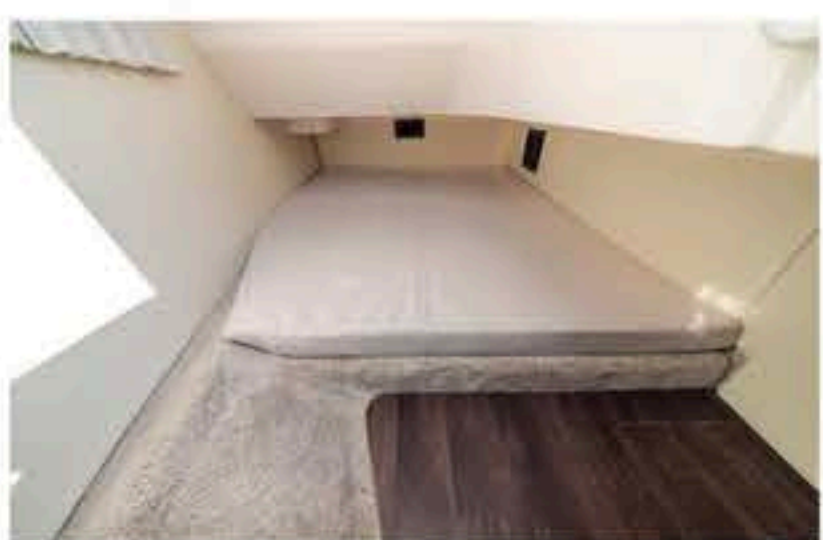
これもまたビルダーのデータですが、最高回転域での燃料消費は約180リットル/時。この出力帯のひと昔前の船外機をご存じの方ならば、ずいぶんと燃費が向上したものだと感じるのではないかと思います。それでも18リットル入りの1斗缶で10缶分のガソリンを1時間で消費するわけですから、絶対的には相当な消費量でもあるわけです。

とはいえ、4,000回転/分まで落とすと、燃料消費は約89リットル/時。試乗時は、それでも27.5ノットでしたから、まだまだ軽快な走りを楽しめる速度ですし、3,500回転/分ならば、速度は21.9ノットまで落ちますが燃料消費は約62リットル/時です。

33 OBXの燃料搭載量は939リットル。そのうちの139リットルを予備に残し、800リットルを使う前提なら、21.9ノットで12時間54分の航続時間となり、航続距離は282.6カイリです。この種のモデルで、しかも20ノットを超える速度で、これだけ走ることができるなら十分でしょう。

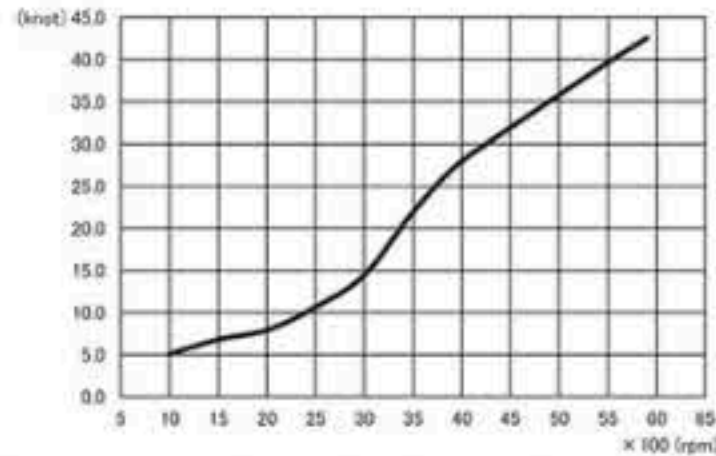
*

パウライダーもこのクラスになると、船上のスペースはたっぷりありますし、挙動も穏やか。よりゆったりとした時間を過ごすことができるはずです。33OBXは、余裕あるサイズのパウライダーならではの楽しさを味わうことができる一艇になるでしょう。



右舷側コンソール内部はスリーピングスペース。本格的な宿泊をする人は少ないと思いますが、少し横になって休んだりするのに重宝するスペースで、物入れとしても有用

REGAL 33 OBX 速度グラフ



計測は試乗艇搭載のGNSS。各回転数において速度安定後に10個以上サンプリングしたデータの平均。往復航走によって誤差が生じる場合は、さらにその平均を算出

DATA FILE



- 全長: 10.39m ●全幅: 3.18m ●喫水: 0.58m(ハルのみ)
- 排水量: 5,216kg ●燃料搭載量: 939L ●清水搭載量: 110L ●エンジン: ヤマハF300G (300PS/221kW) x2
- 価格: 問い合わせ

【問い合わせ】
ヤマハ藤田(オークマリーナ店)
〒671-1321
兵庫県たつの市御津町羽屋 1131-1
TEL: 079-322-8800
<https://www.regalboats.jp/>